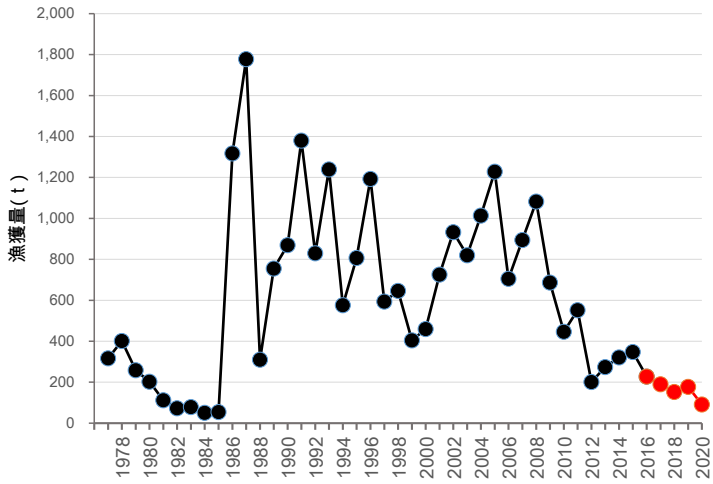
マアジ

令和2年12月

資源の動向 「低位・減少」



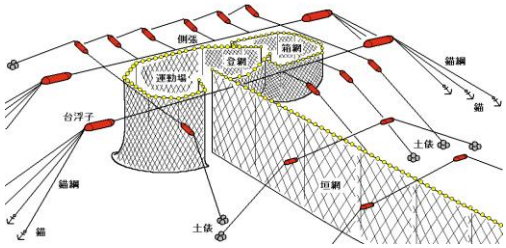
相模湾のマアジ漁獲量の経年変化
（定置網：1977～2020）

相模湾のマアジ漁獲量は2008年から減少傾向にある。これはマアジ太平洋系群の資源量が減少傾向にあるため、東シナ海から回遊するマアジが減少していることに起因すると考えられる。相模湾での直近5年の傾向は「低位・減少」である。

対象漁業

〇定置網

定置網の構造と各部の名称



生物学的特性

〇分布：日本の沿岸全域

〇移動：東シナ海で産卵し、産卵後は索餌のため北上回遊する。
地付きのマアジは地先で再生産し、長距離回遊は行わない。

〇成長：尾叉長は1歳で18cm前後、2歳で尾叉長21cm前後に成長し、本格的な繁殖への加入は雄は1歳，雌は2歳以上。

〇産卵期等：東シナ海では2月～4月、相模湾近海では5月～6月に最も生殖腺が発達。